

JA全農 WEEKLY

7面

全国で事業承継の取り組み拡大中 親子版に続き集落営農版ブック作成へ

2面

北海道でファームフードサミット2017
牛の生産管理アプリなどに高い関心



神奈川県本部が定休日のJA直売所で売れる陳列の演出で実地研修(3面)



広島県本部はJA広島中央会と共催で「JAグループ広島 担い手アグリサミット」を開催(6面)



急増したTAC提案による事業承継ブックを活用した親子間の話し合い(7面)

- 2 ニュース&トピックス(畜産生産部、山梨県本部)
- 3 ニュース&トピックス(神奈川県本部、生産資材部)
- 4 JAズームイン(JA東京むさし)
- 5 県本部だより(岐阜県本部)
- 6 インフォメーション(広島県本部)
- 8 コミュニケーション(生活リテール部、JAタウン)

エコーブマーク品29年度
秋冬期新商品



商品の詳細は8面に掲載



News!

牛の生産管理アプリなどに高い関心

初の共催、北海道でファームノートサミット2017Winter

畜産生産部

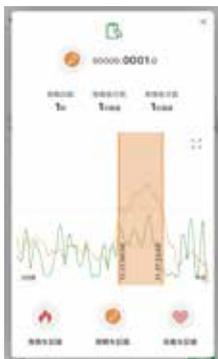
全農が出資し、牛群管理システムやIoTセンサーを展開しているITベンチャーのファームノートホールディングス（FNHD社）は平成29年12月13日、北海道帯広市で「ファームノートサミット2017 Winter」を開催しました。

ファームノートサミットは畜産・農業だけでなく、各界で革新的な取り組みを行う講演者が集う農業イベントで、定期的に開催されています。第8回となる今回は初めて全農が共催し、全国各地から約800人が参加しました。

酪農・畜産経営で重要な繁殖管理に特化し、スマートフォンのみで利用でき、小規模生産者でもより簡単に活用できる生産管理アプリ「Farmnote Breed」の利用開始や、全農が開発段階から協力した発情発見センサー「Farmnote Color」の酪農つなぎ飼いへの対応（実証試験段階）を発表しました。その後は繁殖管理やHACCP/GAPへの取り組み、地方創生やブランド確立への挑戦などをテーマに活発な議論が行われ、来場者の関心を集めました。



牛の首につける発情発見センサー「Farmnote Color」



スマートフォンで牛の発情兆候を確かめる「Farmnote Breed」

News!

「桔露柿」、「あんぽ柿」でトップセールス

地元市場から情報発信

山梨県本部

山梨県本部はJAグループ山梨として平成29年12月15日早朝、甲府市の地方卸売市場で「桔露柿」、「あんぽ柿」のトップセールスを山梨県、甲府市、山梨県農畜産物販売強化対策協議会（關本得郎会長）とともに開催し、これを皮切りに、地元市場から情報発信を行いました。

このトップセールスは、出荷ピーク期を迎えた冬の県産果実「桔露柿」と「あんぽ柿」の県内外での消費拡大や贈答品としてより一層活用してもらうことを目的としています。

長らも参加しました。

關本会長は「山梨県産の桔露柿・あんぽ柿を年末商品、贈答品に活用していただき、農家の所得増加につながるようご協力をお願いします」と呼び掛けました。

当日は後藤齋山梨県知事をはじめ、樋口雄一甲府市長、關本会長があいさつし、県議会議員や県農政部長、JAフルーツ山梨、JAふ

トップセールス後は試食会が開かれ、市場関係者、買参人らが今年の味を確かめた後、せりが始まりました。別の会場では「生産状況及び市場情勢について」、産地・市場・店舗との市場流通や販売拡大に向けた意見交換会も開かれました。



山梨県産の桔露柿、あんぽ柿活用を呼び掛ける關本会長



試食で桔露柿、あんぽ柿の味を確認する市場関係者

売れる陳列の演出とは

定休日のJA直売所で実地研修

神奈川県本部



「見やすく、選びやすく、取りやすい」、売れる陳列のポイントを望月講師(左)が助言

望月氏は「新鮮な地場野菜と心地よい接客に満足すれば、再来店につながる。接客次第で次年度の来店者数や生産者手取りがアップする」と激励しました。

JAかながわ西湘農産物直売所「朝ドレファ〜ミ♪成田店」の協力で、定休日の売り場や販売棚を使い、参加者全員で効果的な陳列について考えました。利用

朝ドレファ〜ミ♪成田店の黒柳勇副店長は「陳列の基本知識について、店舗スタッフ皆で意見を出しながら勉強できて良かった。利用者を飽きさせない売り場づくりや陳列方法を再考したい」と話しました。

神奈川県本部農産総合課は、直売所の利用客が増加する12月6日、JA直売所の売り場づくりを学ぶ「販売促進対策研修会」を開き、JA直売所などの店長、スタッフら37人が参加しました。(二社)農協流通研究所の望月章史講師は、売り場の陳列次第で購入点数や再来店客数が増減すると説明、「見やすく、選びやすく、取りやすい」陳列手法を、全国のJA直売所などの売り場写真を例示し紹介しました。

軽くて使いやすい刈払機が登場!

JAオリジナル刈払機「草刈りPEACH」

生産資材部



使い方の動画はこちら



安心・安全・使いやすいさを重視したJAオリジナル刈払機「草刈りPEACH」。お問い合わせはお近くのJA農機センターまで。

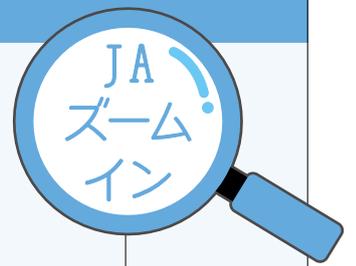
視聴することができます。

使用方の動画を見ると、全農女性職員による

この機械は昨年発売したJAオリジナルバッテリー動噴(きりひめPEACH)に続く、JAオリジナル小型農機の第2弾です。「安心して快適に作業ができる」というコンセプトのもと、軽量かつ使いやすい刈払機となっています。

振動や肩への負担を軽減する新開発の肩掛けバンド(カタ楽バンド)を標準装備。また、安定した姿勢で作業ができるようにシャフトや刈り刃の角度を変更しました。さらに、ラベルのQRコードを読み取ることで、

JAオリジナル刈払機「草刈りPEACH」(MB228 P1JA)2月から発売されます。



都市農業の特徴を生かし

販売力強化で農家所得増大

JA東京むさし管内は、都市農業の特徴である生産者と消費者の距離が近く、

野菜、果樹、花、植木、畜産など農業形態は多種多様で、限られた農地で少量多品目の生産が行われています。JAでは都市農業の特徴を生かした販売力強化で、農業者所得の増大に取り組んでいます。

直売所を拠点に 新たな販路を開拓

平成28年度から長期基本計画を基に管内各市にあるファーマーズ・マーケット5店舗を拠点とした販売力強化を進め、販売専任担当課長を配置し、新規販路の開拓を進めました。新たな販路として地域の学校給食事業の推進をはじめ、スーパーマーケットや病院、ホテル、飲食店など、地場産



販路拡大の拠点となる管内各市にあるファーマーズ・マーケット



新たな販売先に納品するJA職員

農産物の販売先が広がりました。平成29年11月からスーパーマーケット6店舗で販売する農産物の買い取りをスタート。全量買い取りで生産者は売れ残りの心配がなく出荷できる体制を整えました。

販路の拡大で消費者が地

JA東京むさし (東京都)



場産農産物を買う機会を増やし、販売力の強化を図り、需要に対応した供給を維持発展するため生産力強化を目指しています。また、農産物の高付加価値化としてJA管内が栽培発祥の地であるブルーベリーや軟白ウドの伝統野菜「東京うどん」、果肉が黄色のキウイフルーツ「東京ゴールド」など特産化を進め、有利販売に努めています。

最近では都内産の新たなブランドの高糖度キャベツ「東京スイーツキャベツ」をJAが積極的に生産者へ推奨し、平成28年度から試験的に栽培を開始。12～1月の出荷を目指すことで端境期対策と高付加価値化を進めています。

地場産農産物生かし PB商品を次々開発

一方、平成25年からは地場産農産物の消費拡大を図るために、JA管内の地場産農産物を使ったプライベートブランド「ムーちゃん'sキッチン」の商品を開発し、現在、ドレッシングやレトルトカレー、冷凍ギョーザなど七つの商品を販売しています。



地場産農産物を使った加工品

概要	平成29年3月31日現在
正組合員数	3247人
准組合員数	2万4984人
職員数	515人
販売品取扱高	7億3千万円
購買品取扱高	7億3千万円
貯金残高	4890億1千万円
長期共済保有高	7453億4千万円
主な農畜産物	ダイコン、キャベツ、ジャガイモ、ブルーベリー、キウイフルーツ、ウド

県本部 だより

岐阜県本部



県内JAの物流改革を推進 JA・農家を多面的に支援 物流拠点設置し、戸配送を受託

岐阜県本部は平成16年度に「県域物流マスタープラン」を策定し、県内全域での

農家戸配を目指し、物流拠点の設置とJA物流業務の受託を進めています。

県内の物流拠点は、平成13

年にJAひだ（飛騨物流センター）、平成18年にJAひが

しみの・JAとうと（東濃物流センター）に加え、平成29年11月にJAぎふ（岐阜西濃物流センター）が稼働し、3拠点4JAで、農家戸配送比率は50%を超える状況になりました。

農薬の集品ミス「ゼロ」へ 新規システムを導入

JAぎふの農家配送件数は非常に多いことから、集品のミス「ゼロ」を目指し、各務原流通センターに、デジタルアソートシステム（以下、DAS）を新規に導入しました。

DASは簡易式集品支援装置で、予約時期の膨大な集品を少数の人員でこなすこ



新規システムのDAS集品作業

とにより、ヒューマンエラーをなくし、集品ミスを削減することができま

す。現段階では、DASを活用した農薬集品はJAぎふだけですが、今後は、県域物流が稼働している他の3JAにも拡大し、DASを最大限活用した運用を行っていく予定です。

県内全域での受託へ 実態調査もとに提案

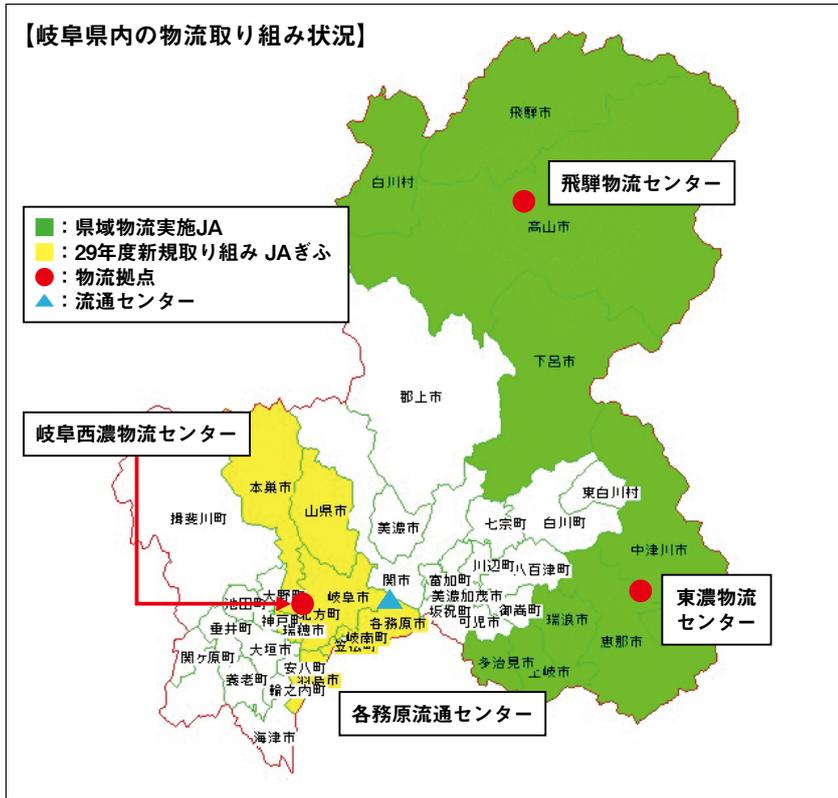
県内では、県域物流の未実施JAが3JAあることから、物流実態調査をもとに物流改革構想の提案と、必要に応じて拠点を設置し、物流改革に取り組みます。また、JAグループを取り

し、担い手へ出向く体制を強化、生産資材価格の低減およびJAの経済事業の収支改善を図っていきます。



岐阜西濃物流センターで戸配送車両への積み込み

【岐阜県内の物流取り組み状況】



担い手経営体に向け総合的な情報発信

担い手アグリサミットで省力のミニセミナーも

J A広島中央会と広島県本部は平成29年11月28、29の両日、東広島市入野のJ A西日本営農技術センターで「J Aグループ広島担い手アグリサミット」を開きました。2日間で担い手経営体、J A、行政関係者など380人が来場しました。

〔広島県本部〕

この取り組みは、J Aグループ広島として担い手経営体に対し情報発信する場をつくり、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けて具体的に総合的な取り組み提案を実施することを目的として昨年度から開催しています。

今年度は「トータルコスト低減に向けた取り組み提案」をテーマとして、従来の研修会・実演会・展示ブースに加え、新たに省力化に向けた各種ミニセミナーを開きました。

来場者の関心を集めた実演会では、ドローンによる農薬散布試験飛行の他、トラクターに装着して耕盤・心土破碎を行うことで土壌の膨軟化を図り排水性を高め



パラソイラーの実演を熱心に見る担い手農家

る「パラソイラー」の実演などを行いました。圃場ほしやうの排水対策は野菜栽培で全体的な課題となっており、来場者は熱心に質問するなどしていました。

水稲栽培に関しては、業務用米としての「あきさかり」の多収の取り組みを提案。来

場者が多収性品種を食べ比べ、栽培方法によって「あきさかり」の業務用に求められる粒感や硬さなどが備わることや体感するブースを設けました。

研修会では、トータルコスト低減に向けた取り組み提案や実際に農事組合法人で実践している事例を説明。展示ブースでは、コスト低減に向けた生産資材やICT(情報通信技術)などの新技術、鳥獣害対策を紹介するなど、農業者の所得向上・課題解決に向けた総合的な提案を行いました。

東広島市の農業生産法人(株)賀茂プロジェクトの田川憲司さんは「経営のヒントを得たいと思いき来場しました。園芸移植機は手間が掛かる

球根の植え付けに活用できそうなので、まずはレンタルで導入を検討します」と話し、「アグリサミットは農機だけでなく、技術や資材も紹介していることが良いですね」と評価していました。

J A全農ひろしま園芸・資材部の山田実部長は「本サミットが担い手農家の経営力向上の一助となれば良いと考えます」と期待を込めました。



賑わったブース展示



園芸移植機の実演を見る担い手農家



全国で事業承継の取り組み拡大中 親子版に続き集落営農版ブック作成へ

全農は事業承継を農業界の重要課題ととらえ、昨年1月に「今すぐ始めよう！事業承継ブック
親子版の話し合いのきっかけに」(親子版)を発行し、TAC活動を起点とした事業承継支援の
取り組みを全国のJAや県域担い手サポートセンターなどへ提案しています。

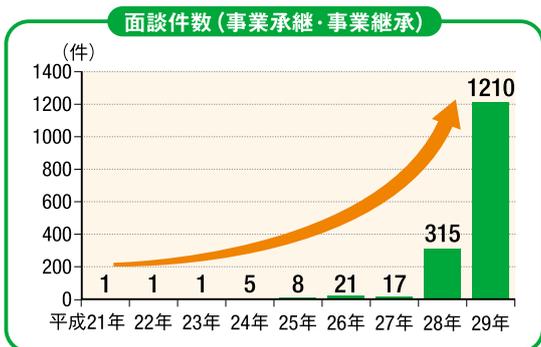
「耕種総合対策部」



事業承継の取り組みを始める際の
道標「JAにおける事業承継の活
動コンセプトづくりシート」

事業承継ブック発行を
機に面談が急増中！

全国のTACが担い手を訪
問した内容は、TACシステ
ムに記録しています。システ
ムに登録されている面談記録(約
800万件)を分析したところ、
平成21年から27年までは、



「事業承継・事業継承」が含
まれる面談はわずか54件でし
たが、事業承継の取り組みを
開始した平成28年には315
件に増加し、事業承継ブック
を発行した平成29年は
1210件と急激に増加して
います。

これは直近1年間だけで過
去9年間の面談記録数の約
3倍に相当することから、
TACの日々の訪問活動の中
で事業承継に関する話が着
実に広がっていることが見て
きます。

JAへの道標 活動の「シート」発行

全農は、全国で率先して事
業承継に取り組む5県のJA
と県域、全中、全共連、農
林中金、JA全青協をメンバー
とした「事業承継プロジェクト

会議」を立ち上げました。全
3回の議論を踏まえ、全国の
JAが事業承継の取り組みを
開始する際の道標となる
「JAにおける事業承継の活
動コンセプトづくりシート」を
今年1月に発行しました。
データは、全県の県域TAC
部署及び県域担い手サポート
センターへ配布していますので、
興味のあるJAの方は、お問
い合わせください。

事業承継ブック 集落営農版も作成中！

親子版の発行後、「集落営
農組織でも取り組みたいので、
ぜひ集落営農版も作ってほし
い」という声が多数寄せられ、
とり急ぎ集落営農版の作成を
決めました。

親子版での「親子間の話し
合い」に重点を置いた点が大変



好評だったことから、集落営
農版でも「世代間の話し合い」
を盛り込みました。また集落
営農の場合は農地に関連する
内容が非常に多いことから、
全農が現在開発を進めている
「クラウド型地図情報システム」
(仮称)の活用も盛り込むこと
にしており、完成は平成30年
度を予定しています。

急増したTAC提案による事業承継ブックを活用した親子間の話し合い

エコープマーク品に29年度秋冬期新商品が仲間入り

「こだわりドレッシングゆず」

「ごまあえの素」

「大麦の生姜スープ」

生活リテール部は、「国内産原料優先使用」「食品添加物極力不使用」「環境に配慮」を基本コンセプトとした「エコープマーク品」の開発・取り扱い拡大に取り組んでいます。【生活リテール部】

平成29年度は、女性組織共同購入やJA農産物直売所、購買店舗向けに8品目を新規開発し、各チャネルで好評販売中です。いずれも安全・安心をコンセプトにした、食卓をさらにおいしくする一品です。皆さんもぜひ、この機会にお買い求めください。

29年度
秋冬期の
新商品

エコープ
こだわり
ドレッシングゆず

チキンや白身魚にも良く合う、国産ゆずの香り豊かなドレッシングです。



エコープ
ごまあえの素

国産十六雑穀パウダーを配合した、化学調味料・着色料不使用の万能調味料です。

エコープ
大麦の生姜スープ

腸内環境の改善や血行促進に注目されている大麦と生姜の栄養を丸ごと摂取できるフリーズドライタイプです。



一部、お取り扱いのないJAもございますのでご了承願います。

JA全農 オフィシャル アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ！
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実！

作動環境：スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン ショップ紹介

（株）宮崎経済連直販ショップ アパス



宮崎県産「完熟きんかん」
「たまたま」
↑「箱」……3200円

（株）宮崎経済連直販ショップ アパスからご紹介するのは、毎年人気の完熟きんかん「たまたま」です。

きんかんは甘露煮やジャムなどで食べることも多いですが、このきんかん「たまたま」は「生」で「皮ごと」食べられるのが特長です。

その訳は、花の咲く時期から210日を目標に樹上で完熟させるから！きんかん特有の刺激成分が消え、「大きく」「甘い」きんかんとなります。ぜひ一度、皮ごと丸かじりをお試しください。

なお、ご紹介した商品は、2/9(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご連絡ください。
商品代金のほか、クール代お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。